

第4回検討委員会の振り返り

資料1-1

連番	項目	発言者	質問・意見	回答	対応
検討委員会でのご意見					
議事(2)「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」(案)について 資料2					
1	① 第1章～第5章の修正	内藤委員長	・市民からはウェルビーイングとは何かという意見も出てくることが考えられるので、意見交換しながら和泉独自のウェルビーイングについて検討いただきたい。		・ウェルビーイングとは何かや具体例の提示について、状態像は個々によって違いがあり、市民一人ひとりが自身のウェルビーイングについて考えるプロセスが重要であるとする。4次計画の内容周知とともに市民一人ひとりの主体的な健康づくりを推進するため、広報やイベントなどの機会を活用し発信していく。
2		永田委員	・ウェルビーイングの具体例があると伝えやすいと考える。計画の策定方針はしっかり記載できていると考えるが、それが伝わるよう具体例も示せるとよい。		
3	②第6章 健康づくり・食育推進に係る具体的な施策	豆野委員	・スポーツについてはきっかけづくりが重要であり、きっかけづくりになるような取組みを取り入れられるとよい。例えば体験会や測定会など。	・スポーツのきっかけづくりの取組みについては、P.79 施策2-①のところに、運動習慣の定着につながるイベントを実施する旨も記載している。	
4		内藤委員長	・計画のお知らせや運動づくりの取組みについて、事務局の方で検討されていることはあるか。	・関係団体や関係各課、ボランティア団体などを通して情報発信していく予定である。 ・広報いずみに啓発リーフレットを折り込み全戸配布を予定しており、広く周知できると考えている。また、毎年1,200人位の方が来てくださる健康まつりなどを通して周知も行う予定である。 ・施策の進捗についても毎年評価を行う予定であり、しっかりと進めていきたいと考える。	
5		石橋委員	・適切な睡眠について、適切とはどの程度か。世界の睡眠では9時間程度寝ているとのことであるが(2021年版 経済協力開発機構(OECD)の調査結果)、特に日本は女性の睡眠時間が少ない。日本は寝ずに働くことが美徳と感ずることはあるが、適切な睡眠時間についての情報・知識を提供するとよいのではないか。		・適切な睡眠について、厚生労働省より令和5年時点の科学的知見に基づき「健康づくりのための睡眠ガイド2023(令和6年2月 健康づくりのための睡眠指針の改定に関する検討会)」が発出されている。本ガイドに添った取り組みを行っていく。
6		内藤委員長	・いろんな情報は溢れているが、適切な情報について行政からサポートする体制は大事だと考える。科学的に根拠のある情報について提供できるとよい。		
7		藤原委員	・P.80健康チェックのように健康管理のためには自分の状態を知ることが重要である。健診で身体的な状態は把握できるが、精神面や社会面での状態も知ることができると、健康管理がしやすくなると思う。		・人ひとりのウェルビーイングを向上していく上で、身体的な健康状態のみでなく、精神面や社会面での状態も知ることができる情報発信の工夫について、施策4-①に追記した。
8		中山委員	・レイアウトについて、P.79施策1-③の最後の文のインデントがずれている。2-②の健康づくり推進室も同様。P.82施策6-②に空白行があるため、詰める必要がある。逆に、7.アルコールの文章最後には空白行を入れる必要がある。 ・P.86のプレコンセプションケアについて、市民には浸透していないと考えるので、(妊娠前の健康管理)など説明を加えた方が理解しやすいと考える。		・レイアウトなど対象箇所について修正した。 ・プレコンプレクションケアなど馴染みのない用語について追記した。(No.24参照)
9		上梅委員	・各基本方針の下の説明文について「～言われています」「～取り組んでいきます」と表現が混在している。「～言われているので～に取り組んでいきます」というように、表現の統一をした方が伝わりやすい。		・表現を統一した。
10		井上委員	・高校までは教育の機会があるが、高校卒業後、たばこやアルコールに触れやすい年代に対して何か情報に触れる機会をつくり、たばこやアルコールの影響への理解につながるようにした方がよい。高校卒業後の年代に、気軽に目にしてもらえような施策ができるとよいと思う。		・高校卒業後から特定健診対象年齢までの世代の健康づくり空白期間への働きかけは重要と考えている。生涯を連続的に考えるライフコースアプローチを踏まえ、切れ目のない支援を推進していくことを第6章冒頭に追記した。
11		内藤委員長	・高校卒業後、特定健診を受ける年代まで空白の世代となっている。計画書上でも中学から働く世代に飛んでいるため、AYA世代に対して啓発するような仕組みを検討できるとよい。		・実施10-①「食を通じたコミュニケーションの機会を提供します」について、機会を提供することが目的ではなく、一緒に食事をすることの楽しさやコミュニケーションの大切さの意義を伝えることが重要であることから、原課と調整し表記を改めた。
12		豆野委員	・P.84施策10-①「食を通じたコミュニケーションの機会を提供します」について、提供するとは具体的にどういうことか。 ・現在の表記だと、市の方から何か機会を提供してもらえると捉えられる。	・学校や保育園の給食など、楽しく食事を取る機会があると思うので、そのような意味で記載している。表記について原課と協議する。	
13		早崎委員	・P.84施策9-②について、現在小学校の給食時に手を合わせて挨拶をしないことがあると聞いたことがあるが、実際はどうか。 ・食育という言葉が無くなった地域もあると聞いているが、そのような流れはないか。	・食育の関係課で集まっている会議もあるが、食育において感謝の気持ちを持てるように取組を進めようということになっている。	
14		田中委員	(早崎委員からの質問に対して) ・一般的に中学校では実施していると思う。 ・食育メニューなどで、名称は使用しているためなくしていくという流れは無いと考える。		
15	③第7章 市民の地域・団体が主体的に取り組む健康づくり・食育推進	内藤委員長	・宗教などに関わらず、食への感謝の気持ちを育むことは大事であると考えている。		・「主観的に健康で幸せと思っている市民の割合」の目標値について、健康度「よい」×幸福度「大いに幸せ」=現状値9.9%から目標値20%以上としていたが、健康度「よい」×幸福度「大いに幸せ」=現状値82.5%から目標値100%とする。ウェルビーイングは個々の価値観によって状態像は変化するものであって、本来、一人ひとりのウェルビーイングが保障された社会が望ましいため、目標値を100%とした。 ・自身の健康状態を客観的に把握し、継続的に把握し、過ごし方に活かすことが重要であることから、アプリに限らない指標とする。今回、市民アンケートでは「生活習慣や健康の記録について把握するためのアプリの利用」を訪ねており、アプリ以外の方法を含んだ回答は把握できないことから、参考値として「健診の結果を役立てているか」の値を用いるものとする。
16		永田委員	・いのちをいただくことや食を作ってもらうことに対して感謝の気持ちを育むことは、宗教に関わらず重要である。		
17		石橋委員	・P.92～93「過度な喫煙や飲酒」について、喫煙は過度でなくても良くないため「過度な飲酒や喫煙」と順番を変更した方がよい。		
18	④第8章 計画推進体制・計画のPDCA・指標と目標値	内藤委員長	・「過度な」を削除してもよい。表現について工夫いただきたい。		・FacebookやInstagramについて、「SNS」に修正
19		石橋委員	・P.89 一番下の行 FacebookやInstagramは固有名詞になるため、SNSなど一般名詞の方がよい。	団体と調整	
20		内藤委員長	・団体が実施するのであればどの媒体を使用するか分からないため、SNSとした方がよい。		
21	④第8章 計画推進体制・計画のPDCA・指標と目標値	市川委員	・P.90食育について関心を持ち、～という項目について、他の項目と照らし合わせてみると、妊娠期・乳幼児期について、妊娠期と乳幼児期に分けて具体的に記載した方が次のライフステージにつながるやすいと考える。乳幼児期については、食育について関心を持ちましょう、など具体的に記載した方がよい。 ・チェックのみ残されている箇所があるので消していただきたい。		・市民一人ひとりの主な取組における妊娠期・乳幼児期の食育の取組について、乳幼児期は保護者の食育への認識や取り組みが大きく影響することから、妊婦、乳幼児の保護者を主体とした取り組みとした内容に整理した。 ・チェックのみで文章がない行は、不要にて削除した。
22		永田委員	・健康の指標で主観的に健康で幸せと思っている市民の割合について、改善率が低いと考える。ウェルビーイングの向上をスローガンで掲げているため、もう少し改善率を広げた方がよい。 ・健康チェックでアプリを利用して自身の生活習慣や健康の記録を把握している人の割合という指標があるが、和泉市で推奨しているアプリがあるのか。 ・アプリにこだわる必要があるのか。他のツールや工夫次第でチェックはできる。	・大阪府で運営しているアスマイルというアプリがある。また、民間のアプリなど様々なものがある。今回の指標は特定のアプリではなく、何らかのアプリを利用している人の割合とする想定である。	・「主観的に健康で幸せと思っている市民の割合」の目標値について、健康度「よい」×幸福度「大いに幸せ」=現状値9.9%から目標値20%以上としていたが、健康度「よい」×幸福度「大いに幸せ」=現状値82.5%から目標値100%とする。ウェルビーイングは個々の価値観によって状態像は変化するものであって、本来、一人ひとりのウェルビーイングが保障された社会が望ましいため、目標値を100%とした。 ・自身の健康状態を客観的に把握し、継続的に把握し、過ごし方に活かすことが重要であることから、アプリに限らない指標とする。今回、市民アンケートでは「生活習慣や健康の記録について把握するためのアプリの利用」を訪ねており、アプリ以外の方法を含んだ回答は把握できないことから、参考値として「健診の結果を役立てているか」の値を用いるものとする。
23	計画書全体に対して	内藤委員長	・昔でいうと歩数計などもある。アプリに限定せず、何らかの機器を用いて自身の健康状態を客観的に把握することとするのもよい。		それぞれの言葉に説明を追記 適正体重、ベース推定値、メタボリックシンドローム、BMI、プレコンセプションケア、コミュニケーションワーク、フレイル、オーラルフレイル、PDCAなど
24		石橋委員	・馴染みのない言葉については、巻末に用語集を入れるか、ページの下で解説やコラムを入れるなどして、言葉に馴染んでもらう工夫が必要と考える。		
25	計画書全体に対して	内藤委員長	・「取組」と「取り組み」について表記を統一した方がよい。		・名詞は「取組」、動詞は「取り組み」に統一。そのほか各単語についても表記揺れを修正した。
26		石橋委員			